

【ミニ展示】

# 岡本かの子の短歌を「かなの書」にのせて

●場所 COFFEA EXLIBRIS kettle 京王線 東府中駅徒歩4分 府中市八幡町3-19-3

●期間 2024/ 5/18土 ~ 6/16日 12時~19時 土日祝11時~ 火曜定休

平安時代に誕生した日本独自の文化である「かなの書」。それは、今ではほとんど見ることもなくなった変体仮名と連綿と呼ばれる流麗な続け書きを使って、俳句や和歌など日本の情緒的感覚を表現するアートです。日本人の美意識が生み出した、流れるような美しい線と余白が織りなす空間美は、かなの書にしかない魅力といえるでしょう。

本展示では、大正時代に詠まれた岡本かの子の歌集から、心惹かれた桜の歌を題材に、かなの書のちらし書きという手法でもって、その魅力を表現してみました。未熟な作品ではございますが、歌の魅力とともに、かなの書についても知ってもらえる機会となれば幸いです。

●書/デザイン

内田結可里

ペンと筆のレッスン室主宰  
全日本書芸文化院常任理事  
作品づくりに励む傍ら、ペン字、毛筆の指導を行っている。



●短歌出典

歌集『浴身』 岡本かの子（岡本太郎の母）  
百三十余首の桜の歌を載せている。桜と対峙して詠まれた歌はいずれも美しく、新鮮で、激しくも愛があり、絵画的でもある。

●表装

柘植 守 : 柘植(つげ)表具店

作品番号 ①

②

③

④

⑤

短歌

変体仮名

は 感 だ ぜ か さ ざら木諸く らふに立ら め熱こちそ木 やをものの	淋八 家ひ う 滴重 のん つ とざ 白が しか花く かし りたげのらにべの	つ ひ う な桜と 若がのも 愛め瞳胸れ幹と しるののしにの	た ひほ へわしそ うをがひそ けちむ真し腕糸 りにちひとが桜	も 闇 さの語淡の夜 くから星 小と夜 桜ら小ふとに床ては
可 は 无 多 世ら可茂 沙 佐布木妻く らねル多 免つこ千曾木 やをも農能の	淋 家 滴 八 の日 う と重 しむ 徒 盤さ ろ可志 し可那く 可志 利多介のら耳への	佐 く つらひ う 若なのと 可流 可三も なめ瞳まれ支と 志るの乃し二能	ほ 曾 多 飛き へ王し可糸 うを可、悲佐 介ちむ万、なく 李耳遅ひ登可ら	や 三 毛可 の さの多淡 およ く可ら星 登と夜 桜ら小ふと尔こ三は

⑥

⑦

⑧

⑨

短歌

変体仮名

光 す 桜 ひ る な花わこ あとど空るのきよ りつ星きに暗上てひ	提 灯 のわ の 炎が 間た かは持 にだ桜ずとて し白真にはとどる	ひ松 まの 松 よ葉さの ざりのき間 くう黒けに ら紅すきり桜	桜 さ 浮 花きさ 青苔木淀陰けれ りめもののりば春
光 桜 須 な花 飛 るそるのわこ あと本とらやう支よ りつしき二三ハ三悲	提 灯 のわ や 佐 ひ可 三多く可者毛 し尔、ら春登帝 志るま耳盤てとる	松 飛の ま ま盤 つ よ能さの 沙 利くき万 くへうろ介二 ら耳春きり桜	桜 花さ あこ浮よ可起沙 をけ木登遣介連は 里免毛の農能利八る

●ご購入をご希望の方  
店内スタッフに  
お声がけください。

●お問い合わせ  
こちらへお願いします。

